

吟詠教本 和歌篇(上巻)

題	初句	作者	頁
「古事記」より	八雲立つ	須佐之男命	2
難波津に	難波津に	王仁	4
貢物許されて國富めるをご覧じて	たかき屋に	仁徳天皇	6
聖徳太子、…	綴照るや	聖徳太子	8
題しらず	秋の田の	天智天皇	10
有間皇子、自ら傷みて松が枝を結ぶ歌	家にあれば	聖徳太子	12
額田王、近江天皇を…	君待つと	額田王	14
柿本朝臣人麻呂の羈旅の歌	天離る	柿本人麻呂	16
軽皇子、安騎の野に宿る時に、…	東の	柿本人麻呂	18
柿本朝臣人麻呂の歌一首	近江の海	柿本人麻呂	20
慶雲三年丙午、…	葦辺行く	志貴皇子	22
大宰帥大伴卿、酒を讀むる歌	駿なき	大伴旅人	24
この世にし	この世にし	大伴旅人	26
子等を思ふ歌一首	瓜食めば	山上憶良	28
沈痾の時の歌一首	土やも	山上憶良	32
山部宿禰赤人、…	天地の	山部赤人	34
神亀元年甲子の冬十月五日、…	若の浦に	山部赤人	38
題しらず	ももしきの	作者未詳	40
二十三日に興に依りて作る歌	春に野に	大伴家持	42
三年春正月一日に、	新しき	大伴家持	44
防人の歌	父母が	丈部稲麻呂	46
武蔵の国の歌	多摩川に	作者未詳	48
唐土にて月を見てよみける	天の原	安倍仲麿	50
題しらず	ほのぼのと	詠み人知らず	52
題しらず	世の中は	詠み人知らず	54
比叡山中堂建立の時	阿耨多羅	伝教大師	56
題しらず	花の色は	小野小町	58
駿河國うつつ山に	するがなる	在原業平	60
月やあらぬ	月やあらぬ	在原業平	62
五節の舞姫を見て	天つ風	良岑宗貞	64
流され侍りける時	東風吹かば	菅原道真	66
海	海ならず	菅原道真	68
舊年に春たちける	年のうちに	在原元方	70
桜の花の散るをよめる	ひわかたの	紀友則	72
白菊の花をよめる	心あてに	凡河内躬恒	74
平定文が家歌合に詠み侍りける	春立つと	壬生忠岑	76
春立ちける日詠める	袖ひちて	紀貫之	78
七重八重	七重八重	兼明親王	80
心かはり侍りける女に、…	契りきな	清原元輔	82
天曆の御時の歌合	忍ぶれど	平兼盛	84
屏風に	わが宿の	源順	86
入道摂政まかりたる	嘆きつつ	右大将道綱母	88
題しらず	なげやなげ	曾禰好忠	92
題しらず	山城の	曾禰好忠	94
逢坂の関に庵室を	これやこの	蝉丸	96
一条院の御時、	いにしへの	伊勢大輔	98
題しらず	寂しさに	和泉式部	100
性空上人のもとに	暗きより	和泉式部	102
大江山	大江山	小式部内侍	104
早くより童友だちに	めぐりあひて	紫式部	108
題しらず	遙かなる	大式三位	110
みちのくにに	都をば	能因法師	112
師賢朝臣の梅津の	夕されば	源経信	114
堀河院の御時、	照射する	大江匡房	116
障子の絵に、	ふるさとは	源俊頼	118
夏の月を詠める	にはのおもは	源頼政	120
陸奥の國に平泉に	ききもせず	西行法師	122

吟詠教本 和歌篇(上巻)

題	初句	作者	頁
なでしこ	かきわけて	西行法師	124
三夕の歌「こころなき」	心なき	西行法師	126
題しらず	津の国の	西行法師	128
題しらず	寂しさに	西行法師	130
静 若宮八幡へ	しづやしず	静 御前	132
百首歌奉りける時、…	夕されば	藤原俊成	134
守覚法親王家に…	たちかへり	藤原俊成	136
三夕の歌「さびしさは」	寂しさは	寂蓮法師	138
五十首歌奉りける時	村雨の	寂蓮法師	140
左大臣家十題百首「十樂の心」	むらさきの	寂蓮法師	142
百首歌奉りける時、	山深み	式子内親王	144
百首歌奉りける時、	桐の葉も	式子内親王	146
立春の心を	み吉野は	藤原良経	148
家に花五十首歌よませ	昔たれ	藤原良経	150
鴨社歌合とて	石川や	鴨 長明	152
はこねにまうづとて	箱根路を	源 実朝	154
五十首歌奉りける時、	大江山	慈 円	156
春のころ大乘院より	みせばやな	慈 円	158
題しらず	おほけなく	慈 円	160
寛喜元年女御入内屏風	風そよぐ	藤原家隆	162
をのこども詩を作りて	見わたせば	後鳥羽院	164
三夕の歌「見わたせば」	見わたせばわたせば	藤原定家	166
守覚法親王の五十首歌に	しもまよふ	藤原定家	168
百首歌奉りける時	駒とめて	藤原定家	170